

令和7年3月11日

保護者 様

柏市立柏第五小学校

校長 宮内 竜男

学校評価結果について

学校評価アンケートにご協力いただきありがとうございました。

アンケートの結果や記述内容を真摯に受け止め、教職員が今年度の教育活動を振り返り、学校運営の視点で自己評価を行いました。また、教職員の自己評価結果や児童アンケート結果、保護者アンケート結果について、学校運営協議会委員の方々にも評価をしていただき、次年度に向けた方向性や改善策を検討いたしました。

本紙では、次年度の方向性や改善策について大きく4項目についてまとめたものを載せております。また、学校ホームページにおいて、教職員の自己評価結果及び児童アンケート結果、保護者アンケート結果を集計したグラフを掲載しました。

この調査結果を、次年度の学校経営に生かしていくとともに、学校運営協議会、保護者、教職員等の連携を一層高めて、教育活動を進めてまいりたいと考えております。

本校の児童がますます健全で安心した学校生活を送ることができるよう、今後も学校教育へのご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

学校評価結果と令和7年度に向けて【柏第五小学校】

1 柔軟な発想力（状況に応じたアイデアを生み出す力）の育成に向けて

今年度も、本校の学校教育目標の「創造性豊か」に焦点を当て、「創造性豊か」を「柔軟な発想力（状況に応じたアイデアを生み出す力）」と捉え、体験活動や問題解決学習を多く取り入れたり、児童の主体的な活動場面が設定できるようにしたりしながら、思考力、コミュニケーション力、表現力の育成に努めてまいりました。

今年度は、昨年度より発足した学校運営協議会との連携をさらに充実させ、地域や保護者の方々の協力を得ながら、運動会や持久走大会、五小わくわくフェスティバル等の体験活動を充実させることができました。保護者アンケート「学校は、よりよい学校づくりに向けて、教職員や保護者、地域と連携・協力しながら教育活動を行っている。」の項目で肯定的回答（そう思う、ほぼそう思う）が昨年度よりも上昇し、90%と高い結果となりました。さらに、柔軟な発想力を児童に身につけさせるために、日々の授業の中で体験活動等を意図的・計画的に実践していけるよう教職員一人一人の意識を高めていきたいと思ひます。

一方で、「思考力、コミュニケーション力、表現力の育成」に目を向けてみると、児童アンケート「思ったことや考えたことを先生や友達にわかりやすく伝えることができるか。」の項目で肯定的回答をした児童は78%、保護者アンケート「お子さんは、自分の思いや考えを、先生や友達にわかりやすく伝えることができる。」の項目では、肯定的な回答が60%とやや低い結果となりました。次年度は、各行事だけでなく、日々の教育課程の中で、さらに体験活動や問題解決学習を多く取り入れ、「思考力、コミュニケーション力、表現力」の育成につなげていきたいと思ひます。

学校運営協議会委員からは、「学校や地域、PTA等の連携がさらに充実し、様々な取り組みが成果として表れ、児童の成長につながっている。」とのご意見をいただきました。引き続き、地域や保護者の方と連携し、体験活動や問題解決学習を多く取り入れながら、「思考力、コミュニケーション力、表現力の育成」に努めてまいります。

2 教育相談の充実と情報モラル教育の推進

教職員自己評価「適宜教育相談を行って児童の悩みや問題行動に対応できた」「児童の困りごとへの対応について、家庭と密に連絡を図った」等に関する項目では、やや高めでしたが、保護者アンケート「いじめ防止等の取り組みや指導」と「相談しやすい環境」の項目について、肯定的回答が65%、70%とやや低い結果となりました。いじめ防止に向けた研修及び児童への指導を計画的に行うとともに、毎月実施している「教育相談日」を効果的に活用しながら、教育相談をさらに充実させていく必要があると捉えています。

学校運営協議会委員からは、「相談しやすい環境」について、「教育相談の場面でも、地域や家庭との連携をさらに充実させる必要があるのではないか。」とのご意見をいただきました。困っている児童をだれ一人取り残さない体制を構築すべく、教員が一人で抱え込むのではなく、学年主任や管理職等と「報告・連絡・相談」をしながら対応すると共に、引き続き保護者や地域、関係機関等との連携を図ってまいります。

また、情報モラル教育については、保護者アンケート「ICTを活用した授業や情報モラル教育の実施」に関する項目において、肯定的な回答が73%とやや低い結果となりました。

今年度は、土曜参観日に4年生に向けて、外部講師を招きネットモラル授業を行ったり、特別支援学級においても柏市教育委員会児童生徒課の指導主事を招聘して、インターネットの危険性について授業を行ったりしました。

しかしながら、実際にはインターネットに関するトラブル等もあり、児童に自分事として捉えさせられる指導ができたかどうかについては、課題が残っています。引き続き、各担任のICTの利活用に関する意識が高め、教職員同士で研修を行ったり、授業に効果的な教材等を共有したりしながら、情報モラル教育の充実を図っていきたいと考えております。

3 安全教育の充実

本校は、国道16号線が学区を二分しており、非常に交通量が多く、道幅も狭いため、交通事故の危険が高く、交通安全指導の充実が必要不可欠です。そのような中、保護者アンケートの安全教育に関する肯定的回答は、昨年度よりも上昇し、87%と高い結果となりました。

これは、PTAや地域の安全ボランティアの方々が熱心に見守り活動をしていただいた成果であると捉えています。一方で、児童の通学時のマナー等について地域の方から様々な意見が寄せられています。

そこで、さらなる児童の安全意識醸成に向けて、昨年度から4年生が総合的な学習の一環として、PTAとも連携し、日本体育大学柏高等学校の生徒と、地域の交通安全について意見を交流する機会を設けています。地域の高校生と意見交換をすることで、自分事として学区の安全に目を向けることができました。次年度も、PTAや地域との連携を図るとともに、安全意識の醸成に向けてカリキュラムマネジメントの視点で、教育課程を編成していきたいと考えております。

4 食育の一層の推進

食育は、一生涯にわたって健やかに生きていくことができるよう、その基礎をつくるために行われるものです。その一つが学校給食であり、保護者アンケートの学校給食に関する肯定的回答は、91%と高い結果となりました。教職員の自己評価も高く、今年度も栄養教諭が中心となって、外国語の学習で、6年生児童が考えたスープを外国語でスピーチし、学級代表に選ばれたスープを実際に給食の献立に取り入れたり、箸検定を実施し、箸の持ち方について意識を高めたりする等、様々な教育活動の中で食育を推進してきました。引き続き、教職員や児童と共に、食育の一層の推進を行っていきます。